

第3回宮崎海岸市民談義所 議事概要

日時：平成 21 年 7 月 25 日(土)

場所：佐土原町総合文化センター

事務局より開会の挨拶、国、県の出席者の紹介を行った後、市民連携コーディネータの進行により議事が進められた。

まず、事務局より「これまでのおさらいと本日の流れ」、「談義所の役割、談義のルール等」について説明した後「第3回宮崎海岸侵食対策検討委員会技術分科会の報告」を行い、質疑応答を行った。

その後、「第2回宮崎海岸市民談義所での意見の掘り下げ」を行った。続けて、事務局より今年度の「養浜計画(案)」を説明し、質疑応答の後ワークショップが行われた。ワークショップでは、市民等の参加者が「養浜の実施にあたり現地で配慮・工夫してほしいこと」、「養浜の実施箇所の現状、情報」を名前とともに記入した付箋を宮崎海岸の航空写真の上に貼った後、市民連携コーディネータの司会で、市民の参加者の間で談義が行われた。

また、前回談義所のワークショップで実施した「市民が考える、対策の条件・配慮すべき事項」について、追加意見がある方に提出してもらった。

最後に、「養浜以外の対策も含めた今後の検討の進め方」、「海岸の利用を考える会(仮称)の設置」について事務局より説明を行い、質疑応答を行った。

質疑の内容、談義の内容等は以下の通り。

～質疑の内容～

【第3回宮崎海岸侵食対策検討委員会技術分科会の報告】

質問：第3回技術分科会で地形変化モデルは決定したということなのか？確認・修正事項があったと認識しているが。

回答：これで決定というものではない。技術分科会で委員から指摘を受けた事項等は今後、検討を行う。

質問：地形変化モデルの構築においては、構造物設置の影響や構造物の被害(離岸堤の沈下)を考慮しているのか。

回答：離岸堤については構造物として考慮していない。港湾への土砂の堆積は考慮している。

質問：地形変化モデル構築において、一ツ瀬川、小丸川、大淀川からの土砂の供給は考慮されているのか？

回答：小丸川から 5 万 m³、一ツ瀬川から 0.5 万 m³の土砂供給を計算条件として入力している。

質問：「安定」という説明があったが、何年間の結果なのか？動物園前は、海岸線が 80m くらい後退している。

回答：土砂収支図は約 20 年間の地形変化の傾向を分析したものである。また、「安定」と表現していたのは小丸川～一ツ瀬川の区間であり、ご指摘の箇所は侵食が進んでいると

理解している。

尚、もともと「安定」と表現していた小丸川～一ツ瀬川の区間についても、誤解を与えるため「一定の地形変化傾向は認められない」という表現に改めたところである。

質問：バー地形が沖に動いたということであるが、岸側に土砂は戻ってくるのか？

回答：波が砕けるところにバーができる。5月末の高波浪の影響もあり沖にバーが移動したと考えられるが、静穏な状況が続けば、バーはまた岸に近づくとと思われる。

質問：7月5日開催の公開勉強会で専門家が、「水深9mより深いところへは、土砂は移動しない」と言っていた。

回答：海岸工学の一般的な理論として、それより深い場所では波による顕著な地形変化が起こらないとされる水深があり、宮崎海岸の場合は、既往の測量データの解析結果から水深10～12mと推定される。なお、台風による高波浪が頻繁に発生するなど、その水深より沖側に土砂が移動した場合には、陸側に戻ってくることができなくなる土砂もある。

また、土砂の移動形態は粒径によっても変わる。例えば粒径の小さいシルト・粘土分などは浮遊状態でも移動することから、この移動限界水深よりも深い場所に移動することはあると考えられる。

【養浜計画（案）】

回答：動物園沖の海中養浜は、どのくらい的水深への投入なのか？

回答：水深5mくらいの場所を予定している。

質問：「危ないところ」に対策をして欲しい、と地元は言っている。勉強会のときもそういう話があった。それと養浜箇所との関連は？

回答：前浜のない一ツ葉PA付近と一ツ瀬川右岸は、「危ないところ」のひとつになると考えており、養浜計画案のいくつかはそれらの箇所への土砂供給を期待しているものである。

質問：勉強会で地元が「危ない」と言っていたのはどこか？

回答：場所を特定した意見ではなかったと認識している。

質問：「危ない」とは、護岸に被害が及ぶことを「危ない」といっているのか。砂浜は、一時は狭くなってもまた、戻るはたらきがあると思う。

回答：「危ない」の一つの見方として、土砂収支で見れば、毎年約20万m³の砂が減少している住吉海岸は危ない地域と見る事が出来ると考えている。「危ない」にもいろいろな考え方があると思うので今後議論していきたい。

質問：H21 養浜は、投入する全体ボリュームはいくらか？

回答：養浜の全体量については漁協などの関係者との調整があるため、現時点では確定していない。

質問：動物園裏の養浜箇所では、5mの浜崖ができています。これは、ウミガメが登れない比高であり、質的にも滑って登れない。今年は産卵せずに海に引き返すウミガメが多い。養浜はウミガメに影響がでないように、段階的に実施するなどして欲しい。

回答：検討していきたい。ワークショップでもそのような意見を出して頂きたい。

【養浜以外の対策も含めた今後の検討の進め方】

質問：説明のあった内容は、時間的にはどの程度の期間を想定しているのか？

回答：2,3年程度を想定している。

質問：対策事例の情報を提供するとあったが、海外事例も含めるのか？

回答：検討する。

質問：試験施工は、複数案の同時期の実施は想定しているのか？

回答：予算のかからないようなものであれば複数のを同時に実施することはありえると考えている。尚、検討段階においては、複数の案を同時に検討することを想定している。

質問：一連の海岸でも状況や特性が異なるので、いくつかのゾーンに分けられるのではない
か。ゾーンによって試験施工のやり方も変わってくるのではないか。

回答：今後、そのような議論を進めていきたい。

～養浜計画（案）に関するワークショップで出された市民の意見～

青色の付箋紙：養浜の実施にあたり、現地で配慮・工夫してほしいこと（その理由）

黄色の付箋紙：養浜の実施箇所の現状、情報 ※皆さんに知ってもらいたいこと

場 所	色	意 見 下線を引いた箇所は、内容を確認した事項
全体	青	養浜は漂砂による自然工法で、宮崎県の土砂は火山性で供給土砂は可能である。
	青	養浜については構造物、砂浜等によって工程が異なると思われるので区分して考慮すべきである。 <u>一連の海岸でも状況や特性が異なるので、いくつかのゾーンに分けられるのではないか。ゾーンによって試験施工のやり方も変わってくるのではないか、ということ。</u>
	黄	養浜は毎年実施することになれば莫大な予算が必要ではないか。
一ツ瀬川	青	養浜と合わせてダムからの土砂の供給量のバランスをとってほしい。 （台風の時などは多めに流すとか・・・） <u>川から自然に土砂が出るようにして欲しい、ということ。</u>
	青	一ツ瀬ダムにたまっている土砂を海岸に持ってきてほしい。
	黄	一ツ瀬川からの供給土砂を増やす方法・工法を検討して欲しい。 <u>川から自然に土砂が出るようにして欲しい、ということ。</u>
石崎浜	青	養浜工事の土砂量を1/2以下にして欲しい。
動物園裏	青	動物園の東に道路を確保して、侵蝕を防ぐ工事を早急にやってほしい。 <u>養浜は、H20 実施箇所よりも北側で実施して欲しい、ということ。</u>
	青	養浜工事を段階的に実施する。（ <u>盛る高さ</u> を）約1m位。 <u>3期に分けて養浜を実施して欲しい。分けて実施すれば、崖が形成されず、自然の地形が形成され、ウミガメが登りやすい、ということ。</u>
	黄	動物園から海へとつづく道路の場所が侵蝕がはげしいので、大きな台風で海水の侵入が起こりそうで心配。
動物園沖	青	動物園沖の船からの養浜は、もっと北で実施してほしい。基本、南に流れる為。

※下線の部分は、ワークショップ中に市民連携コーディネータにより口頭で確認されたもの。

～「市民が考える、対策の条件・配慮すべき事項」に関する追加意見～

赤色の付箋紙：実施してほしくないこと(その理由)

青色の付箋紙：実施してほしいこと(その理由)

黄色の付箋紙：海岸の現状 ※皆さんに知ってもらいたいこと

場 所	色	意 見
全体	青	砂浜が拡大縮小しても人の生活に被害を及ぼさないために幅広い海岸林が作られてきたはず。だから砂浜の侵食問題を論議するときには海岸課や河川課や港湾課に加えて、海岸林を担当する部署も参加してほしい。 <u>林務部局も一緒に侵食対策を考えるべき、ということ。</u>
	青	市民の安心・安全の為、台風時に海水が入らない応急工法。先ず、仮工事を実施すべきではないでしょうか。 <u>台風時に海水が背後地に進入しないように早急に対策を実施すべき、ということ。</u>
	青	市民と海岸利用者との腹の割った話し合いの場を設けるべきです。
	黄	ごがんをしげんてきにとりのぞいて、そこへようひんしたらどうかと思います。 <u>試験的に養浜を実施するというなら、養浜した箇所で試験的に護岸を撤去したら良いと考える、ということ。</u>
	黄	松林がどんどん前に出てきて(海側に進出してきて)、そこへ砂も入っていく、海浜植生をこわしていると思うので、考えてやった方がいいと思う。
	黄	ヘッドランドなど、コンクリートにたよりすぎない工法をお願いしたい。
石崎川 付近	青	導流堤の設置。砂浜流出以前は汀線に直角に石崎川は流入していた。 <u>石崎川は昔は(河口が)まっすぐ流れでていたが、今は違って、暴れ川になっている(河口の位置が安定しない)。導流堤を設置して欲しい。河口が暴れると海浜も安定しない、ということ。</u>
	黄	石や雑木が多い。
住吉 IC 付近	黄	波うちぎわにスナホリガニがたくさん生活している。 <u>スナホリガニは、ヤドカリの仲間であるが、ヤドカリのように宿は背負っていない。ゲンゴロウのような容姿、ということ。</u>
	赤	砂丘の上に松を植えないでほしい。
大淀川 河口	黄	大淀川導流堤付近に砂の異常な(!?)堆積が見られるが・・・ <u>大淀川導流堤の左岸が、この1年で急激に堆積している。これはなぜか?原因が知りたい、ということ。</u>

※下線の部分は、ワークショップ中に市民連携コーディネータにより口頭で確認されたもの。

～第2回宮崎海岸市民談義所での意見の掘り下げ～

第2回談義所での意見	確認結果
<p>(実施してほしいこと：全体) 魚貝類の調査。水深 10m付近が一番重要だと漁業関係者が言われている。具体的なデータ</p>	<p>意見の意図は、漁業関係者に、水深 10m付近が重要であると聞いた、重要である理由は知らないが、調査したらどうか、ということ。</p>
<p>(実施してほしくないこと：全体) 不用な突堤を取除くべき</p>	<p>意見の意図は、「不要な」ということ。 機能を果たしていない不必要な突堤は取除くべき、ということ。</p>
<p>(実施してほしいこと：住吉 IC 付近) 長期的な事かな？コンクリート構造物を部分的にでも試験的にとりのぞいてみてほしい。</p>	<p>意見の箇所は、港（南）の方から北に向かって作られてきている離岸堤のことを指している。</p>
<p>(実施してほしいこと：一ツ葉 PA 付近) テトラポットの撤去</p>	<p>意見の箇所は、一ツ葉 P A 付近のことであるが、全体的にもそういう考え（テトラポットを撤去してほしい）を持っている。</p>
<p>(実施してほしいこと：宮崎港付近) 不用の突堤を取り除く</p>	<p>意見の意図は、「不要な」ということ。 宮崎港を建設する際に、防砂堤（南ビーチとマリーナの間）ということで設置されたが、機能を果たしていないのではないかと。きちんと検討されて設置されたわけではないのではないかと考えている。 また、港の近くは波が複雑で船が転覆するくらいである。これが突堤のせいなら取除くべきではないか。ひいては、これは砂浜の侵食につながっているのではないかと、ということ。</p>
<p>(海岸の現状：宮崎港付近) 年毎に埋ってせまくなっています</p>	<p>意見の箇所は、宮崎港のサンビーチのこと。 サンビーチに砂が堆積してきており、海水浴ができる部分の面積が狭くなってきている、ということ。</p>

※今回不参加の方に対しては次回以降に確認を行う。